

## 目に見えないもの

今春、「地域と協働ツアー春の網代から高尾へ」を実施しました。網代自治会と高尾自治会の2つの地域がそれぞれ整備してつながった散策路を利用し、地域の方から教えていただいたルートの魅力を含めた森林レンジャーによる自然解説を行いました。

短いコースながらも、洞窟、網代城山、山の神社や石碑、高尾の山からの見晴らしなど多くの見どころがありますが、ほかにもまだ眠っている魅力的なところがあるはずだとツアーの準備中に下見を何度か行いました。このルートを歩くとしばしば地域の人に出会い、あいさつを交わすと自然と立ち話になり、教えていただくことがあります。「高尾の山は別名愛宕山ともいうんだよ」「あそこは花見山で増戸小からよく見ていた」という話のほかに、「この洞窟は江ノ島に続いているという噂があって、子どもの頃よく大声で呼び掛けたよ」と思わず笑ってしまうような話を聞くこともありました。

また、私は、本に載っていない口伝えによる話に魅力を感じています。なぜなら、自分で自然や歴史を調べるだけでは見えてこない、この地に暮らしてきた人々が自然を恐れ敬い慕い、お互いに生きていたことを感じられるヒントだと思うからです。

地域に眠っている魅力は、何も自然や見どころだけではなく口伝えで残る



話や先人の足跡でもあると思います。ただ、目に見えないものなので利用しづらく、形にできないので価値が見出せないものなのかもしれませんが、それを魅力だと感じている方も多いのではないのでしょうか。

魅力を掘り起こす時、独自に地域の歴史や自然を調べている方に、必ずとっていいほど相談します。すると、快く協力してくださる方々の人の輪が広がり、地域の魅力を多くの視点で感じることができます。だからこそ、見えないものの価値が私の中で、より膨らみ、伝えることができるのだと思います。

今後も地域の皆さんの協力をいただきながら「今、目に見えるものと、もう見えないけれど想像すると見えてくるもの」を織り交ぜて、森と人とのよりよい関係って何だろうと、想いをはせるきっかけとなるツアーを実施していきたいと思います。

(加瀬澤)